



今回は、太陽光発電を利用した省エネ住宅についてご紹介します。

住宅に太陽光発電を導入することで、理屈で導入することで、理想的な省エネ住宅とされることがあります。

国では、こうした理想的な省エネ住宅を、ネット・ゼロ・エネルギー住宅(通称: ZEH(ゼット))と呼び、普及を図っています。

具体的には、高断熱の外壁や窓、高効率給湯・照明・空調設備などを備え、エネルギー消費量が、正味(ネット)でゼロになる住宅のことです。

光熱費削減、快適性向上と防災性能の向上

家庭部門温室効果ガス削減に向けて

広島県の再生可能エネルギー

⑤省エネ住宅ZEH

(広島県環境政策課)

エネルギー消費量を抑えたいで、その消費量に見合った電力を太陽光発電により自ら創り出します。国では、「2020年までに標準的な新築住宅で、2030年までに新築住宅の平均でZEHを実現する」ことを目指しています。

普及状況については、今年度国の補助制度を活用して、全国で6千466件、広島県内で127件のZEHが設置されており、設置件数は増加傾向にあります。国は、昨年7月に、2020年以降の新しい目標を、2030年に26%削減することを決定しました。この中で、家庭部門のエネルギー消費量は、同年まで約40%削減することとされています。ZEHは、環境性能目標を、2013年比で、26%削減することを期待されています。

ZEHは、環境性能と歯の間にものがつまる経験されたことがあります。そんなとき、どのように対処されていますか?

食事をされたあと、歯と歯の間にものがつまる経験されたことがあります。そんなとき、どのように対処されていますか?

ものが挟まるのは歯と歯の間が原因ではありません。ものが挟まるのは、歯周病や年齢が上がるとともに歯ぐき

が下がることが原因であります。でも起こることであります。食堂やレストランには必ず爪楊枝(つまようじ)が置いてあるから、ものが挟まる方が

お勧めしています。歯間ブラシは歯と歯の間のお掃除を専門的にするもので、挟まったものをとるだけなく、歯周病を予防することもできます。歯周病の初期症

が手放せない方だけではなく、口臭が気になる方、歯磨きのときに歯ぐきから血が出る方などには、特に使用をお勧めしています。

歯間ブラシにはいろいろなサイズがありますので、購入の際は、歯間に入れたとき窮屈ではない少し細めのものを選択してください。歯と歯の間に歯間ブラシを入れることに不安を感じます。

じる方には、ゴムでできたソフトピックもお勧めです。使う時間帯は、就寝前の歯磨きのときなど時間を決めて使ってください。でも結構です。

歯間ブラシのサイズがわからない方や使い

いたい方は、歯科医院で指導を受けられてはいかがでしょうか。ちなみに、

歯と歯の間に歯石がついている方は、歯間ブラシは入りません。ご自身

で落とせない汚れは歯

科医院で定期的にクリーニングを受けられることをお勧めします。

●歯間ブラシの使い方(奥歯)



あまり口を大きく開けず、歯間ブラシで頬の内側を押し出すようにしてブラシ部分を歯間部に挿入し、左右に数回動かしてください。

弊社HPで紹介しております。

<http://jp.sunstar.com/useful/usage/interdentalbrush/>

ポスター・標語全入賞作品を展示

啓発効果を高めるアイデアがきらり!

11月14日、江田島市の国立江田島青少年交流の家で「フェスティバル江田島」が開催されました。

デーモン閣下の「がん検診

へ行こうよ」のぼりが出迎えて

くれる公衛協ブースでは、江田

島市公衛協が第1次審査で選定した環

境啓発ポスター・標語コンクール入選作

品が展示され、小中学生や保護者を

はじめ、来場者の注目を集めました。

ブースでは、脱温暖化のパネル展示と併せてアンケート・クイズが行われ、参加者には景品のLEDライトが手渡されました。意識啓発効果をより高めるため、昨年度より温めていたアイデア「環境啓発ポスター入選作品を印刷したシール」を景品に貼ったところ、大変好評で、例年より早く品切れとなりスタッフが慌てる一場面も。また、「自分の子どもの作品が貼られた景品が欲しい」と交換希望がありましたが、既に該当



作品の景品が品切れとなっており交換ができませんでした。来年は予備シールを準備しますとのことです。

よく見ると、がん検診へ行こうチラシも景品に巻き、セロテープで固定されています。

これは、会場内や沿道にチラシが散乱しない工夫で、実際、会長、事務局をはじめ

公衛協スタッフが交代で会場内を巡回、散乱ごみの回収を行っていましたが、ほとんどのごみは落ちていないことでした。

また、公衛協のトレードマークとして、今回新たに作成、お披露目となった赤いはっぴが会場に映していました。

今年度会長になった伊勢木武会長は、「まずは、地域のごみステーションの管理を見直し、ルールの徹底に力を入れていきたい。継続して行っている不法投棄撤去だけでなく、不法投棄ごみパトロールなどの防止対策も課題。」と思いを語ってくださいました。

(地域活動支援センター)